昭和57年４月1日
25号

昭和56年10月26日
24号

昭和55年10月25日
22号

昭和54年４月1日
19号

昭和53年10月25日
18号

昭和53年4月1日
17号

昭和52年10月25日
16号

昭和52年４月1日
15号

昭和40年12月1日
創刊号

昭和58年４月1日
27号

昭和58年10月14日
28号

昭和59年４月1日
29号

昭和59年10月20日
30号

昭和60年４月12日
31号

昭和60年10月23日
32号

昭和61年４月11日
33号

昭和51年10月1日
14号

昭和42年6月1日
2号

平成元年10月20日
40号

平成元年６月1日
39号

昭和63年10月20日
38号

昭和63年６月1日
37号

昭和62年10月1日
36号

昭和62年５月30日
35号

昭和61年10月23日
34号

昭和51年４月1日
13号

昭和50年12月1日
12号

昭和50年4月1日
11号

昭和49年4月12日
9号

昭和48年6月1日
8号

昭和47年10月24日
7号

昭和47年3月24日
6号

昭和44年8月1日
4号

昭和44年1月1日
3号

平成２年４月1日
41号

平成２年10月1日
42号

平成３年6月1日
43号

平成３年10月21日
44号

平成４年４月1日
45号

平成４年10月20日
46号

平成５年６月1日
47号

平成５年10月15日
48号

平成６年６月1日
49号

平成６年10月14日
50号

平成７年６月1日
51号

平成７年10月16日
52号

平成８年６月1日
53号

平成８年10月16日
54号

平成10年６月1日
55号

平成10年10月12日
56号

平成18年10月1日
72号

平成18年６月1日
71号

平成17年10月1日
70号

平成17年６月1日
69号

平成16年10月1日
68号

平成16年６月1日
67号

平成15年10月1日
66号

平成15年６月1日
65号

平成14年10月1日
64号

平成14年６月1日
63号

平成13年10月1日
62号

平成13年６月1日
61号

平成12年10月1日
60号

平成12年６月1日
59号

平成11年10月１日
58号

平成11年６月１日
57号

平成19年６月1日
73号

平成19年10月1日
74号

平成20年６月1日
75号

平成20年10月1日
76号

平成21年６月1日
77号

平成21年10月1日
78号

平成22年６月1日
79号

平成22年10月1日
80号

平成23年６月1日
81号

平成23年10月1日
82号

平成24年６月1日
83号

平成24年10月1日
84号

平成25年６月1日
85号

平成25年11月1日
86号

平成26年６月1日
87号

平成26年11月1日
88号

宇部高専は
2022年に創立60周年を
迎えます。
Search the site!
宇部高専 go

令和２年６月1日
99号

令和元年12月1日
98号

令和元年６月1日
97号

平成30年12月1日
96号

平成30年６月1日
95号

平成29年11月1日
94号

平成29年６月1日
93号

平成28年11月1日
92号

平成28年６月1日
91号

平成27年11月1日
90号

平成27年６月1日
89号

※学校だより6号は実表記5号だが、実際は6号　※5号・10号・20号・21号・23号・26号不明

宇部工業高等専門学校機関誌[第100号]　発行日 2020年12月1日

独立行政法人国立高等専門学校機構 宇部工業高等専門学校　〒755-8555　山口県宇部市常盤台2丁目14番1号　URL http://www.ube-k.ac.jp/

創刊100号特別記念
宇部高専あれこれ

学校だよりで タイムトラベル

1962
宇部高専創立
（機械工学科・電気工学科）

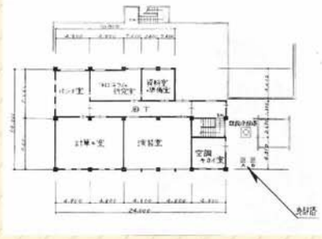
1966 創刊号（1号）
工業化学科
（現：物質工学科）
設置

当時の校長により学校だよりの理念が説明された。

Zoom!

「全寮制　朝から晩まで」
1日の生活から学生と寮監との座談会まで様々な面から寮生活が紹介された

1969 4号
1・2年生
全寮制開始



電子計算機室の設置

1972 6号
電気計算機室
（現：情報処理センター）
の設置

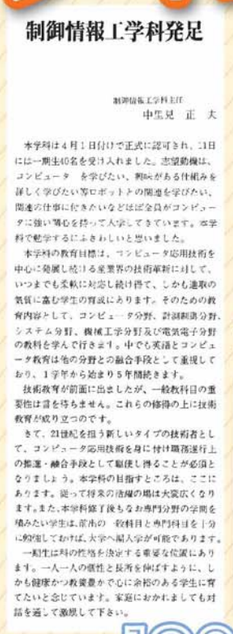
1977 16号
オイルショック
による不況

「就職　3年連続の厳しさ」
1975年のオイルショックの影響で3年連続の就職難に

1984 30号
学生会館竣工

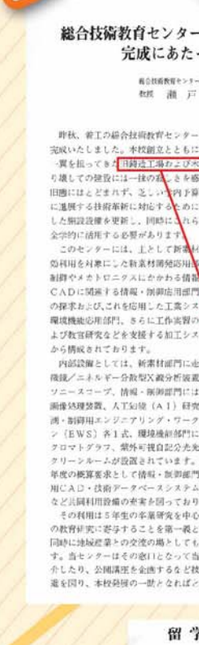
1986 35号
初の「留学生紹介」
マレーシア政府派遣の
留学生3名が
電気工学科へ編入

1988 37号
制御情報工学科
設置



「制御情報工学科発足」
21世紀を担う新しいタイプの技術者の育成が期待された

1989 39号
総合技術教育
センター竣工



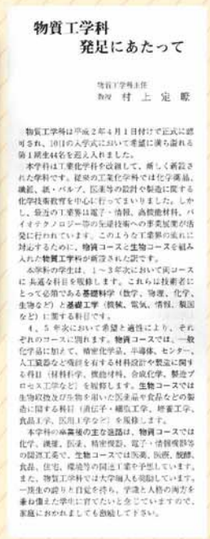
Pick up!

▲旧鋳造工場の様子

1990 41号
工業化学科を物質工学科へ改組

「物質工学科発足にあたって」
工業界の流れに対応するために物質コースと生物コースを組み入れたカリキュラムに改組された

◀モモイロペリカンの「カッタ君」ブーム
本校にもしばしば来校していた



物質工学科発足にあたって

物質工学科長
教授　村上定瞭

物質工学科は平成2年4月1日付けで正式に認可され、10月の入学式において重望に満ち溢れる第1期生44名を迎え入れました。

本学科は工業化学科を改組して、新しく創設された学科です。従来の工業化学科では化学薬品、繊維、紙・パルプ、医薬等の設計や製造に関する化学技術教育を中心に行ってまいりました。しかし、昨今の工業界は電子・情報、高機能材料、バイオテクノロジー等の先端技術への事業拡業が活発に行われています。このような工業界の流れに対応するために、物質コースと生物コースを組み入れた物質工学科が新設された訳です。

本学科の学生は、1～3年次において両コースに共通な科目を履修します。これらは技術者にとって必須である基礎科学（数学、物理、化学、生物など）と基礎工学（機械、電気、情報、製図など）に重きを置く科目です。

4、5年次において希望と適性により、それぞれのコースに別れます。物質コースでは、一般化学品に加えて、精密化学品、半導体、セラミック、人工臓器など電子を有する材料設計や製造に関する科目（材料化学、燃焼材料、合成化学、製造プロセス工学など）を履修します。生物コースでは生物機能および生物を用いた医薬品や食品などの製造に関する科目（遺伝子・細胞工学、培養工学、食品工学、医用工学など）を履修します。

本学科の卒業後の主な進路は、物質コースでは化学、繊維、医薬、精密機器、電子・情報機器等の製造工業で、生物コースでは医薬、医療、健康、食品、住宅、環境等の関連工業で予想しています。また、物質工学科では大学編入も開始しています。一流生の誇りと自覚を持ち、学識と人格の両方を兼ね備えた学生に育てたいと念じていますので、家庭におかれましても指導して下さい。

1992 45号
経営情報学科設置

「経営情報学科の新設」
情報システムを構築できる人材の育成を目的に設置された

経営情報学科の新設

経営情報学科主任
教授　福戸雅文

国立高専としてはじめての文系基礎学科・経営情報学科が、平成4年4月1日付けをもって宇部高専に設置され、去る4月7日の入学式において初名（内女子5名）の第1期生が入学いたしました。

この新学科設置の経緯について申し上げます。学校教育法の一部が平成3年4月1日改正され、高等専門学校に関わるところでは、広き卒業生への進学の道等の設り、社会科学系を加えるほか、従来に工業または商船以外の学科をも設置できることになりました。

一方、近年の卒業生の社会は、情報化・国際化が急激に進み、情報コミュニケーションを基盤として新しい価値観が芽かれつつあります。これらにも技術者にとって必須である基礎科学（数学、物理、化学、生物など）と基礎工学（機械、電気、情報、製図など）に重きを置く科目です。

4、5年次において希望と適性により、それぞれのコースに別れます。物質コースでは、一般化学品に加えて、精密化学品、半導体、セラミック、人工臓器など電子を有する材料設計や製造に関する科目（材料化学、燃焼材料、合成化学、製造プロセス工学など）を履修します。生物コースでは生物機能および生物を用いた医薬品や食品などの製造に関する科目（遺伝子・細胞工学、培養工学、食品工学、医用工学など）を履修します。

本学科の卒業後の主な進路は、物質コースでは化学、繊維、医薬、精密機器、電子・情報機器等の製造工業で、生物コースでは医薬、医療、健康、食品、住宅、環境等の関連工業で予想しています。また、物質工学科では大学編入も開始しています。一流生の誇りと自覚を持ち、学識と人格の両方を兼ね備えた学生に育てたいと念じていますので、家庭におかれましても指導して下さい。

1997
専攻科設置（生産システム工学専攻・物質工学専攻）

2001 62号
山口きらら博に出展

▲山口きらら博にエレキギターロボットを出展した

2002 63号
宇部高専創立40周年

2004 67号
総合技術教育センターから地域共同テクノセンターへ

▲地域共同テクノセンター完成祝賀式典の様子

2005
専攻科設置（経営情報専攻）

2009 77号
図書館新装開館

◀▲改装当初の図書館の様子

2012 84号
宇部高専創立50周年

▲広中平祐氏

2012年10月10日に行われた記念式典では財団法人数理科学振興会理事広中平祐氏、落語家三遊亭円楽氏が講演を行った

▲三遊亭円楽氏

2016 93号
4学期制開始

4学期制の導入により、短期集中型学習による知識定着率向上、学事歴の柔軟化により、１ヶ月間以上の海外研修や長期インターンシップへの参加を促進が進められた

2020 100号
COVID－19流行による緊急事態宣言が出される

▲フェイスシールドをつけて授業
COVID－19対応のため
オンデマンド授業・分散登校が実施される

2022
宇部高専創立60周年

「学校だより」100号を迎えて

宇部工業高等専門学校 校長　山川　昌男
YAMAKAWA Masao

「学校だより」は、今から54年前、本校一期生が卒業を翌春に控えた1966年12月に創刊されました。この年は、当時本校の母体校であった宇部工業短期大学が廃止され、本校が高専として自立した年であり、現在も残る主要な校舎群が完成した年でもあります。

以来、本校の発展とともに歩んできた「学校だより」は、年2回のペースでその時々の学校の動静や学生の活動をお伝えしてきました。このたび記念すべき100号を迎え、これまで本校を支えてきていただきました歴代の卒業生、保護者、地域の皆様、そして歴代の教職員の皆様に敬意と感謝の意を表したいと思います。

現在の新型コロナウイルスの世界的感染拡大は、人々の価値観や社会のありようを変えようとしています。デジタル化・ＩＣＴ化の急速な進展などにより、ものづくりの現場や働き方も変わることが予想されます。本校もこれら社会の変化に的確に対応していかなければなりません。「学校だより」は、これからも本校の進化を伝え続けていきたいと思います。引き続き、関係の皆様のご支援をお願い申し上げます。

半年を振り返って

校長補佐［教務主事］三浦　敬
MIURA Kei

When life gives you lemons, make lemonade!

今年度もいよいよ後半突入となりました。いつ終わるとも分からないコロナ禍を過ごしていますが、我々のミッションは何ひとつ変わりません。最初のうちは慣れなかった遠隔授業も新しい授業形態として定着しつつあります。8月には第1回オープンキャンパスを実施しました。第2学期後半には、学年学科横断型科目のプロジェクト学習が初めて複数学年で展開されました。各チームのメンバーが協力し課題に取り組みました。夏休みの海外研修は中止となりましたが、それに代わるe-learningによる英単語学習、オンライン英会話等々が展開されています。今は、まさに、時代の転換点。この経験はきっと我々を強くします。コロナ禍という逆境にへこたれることなく、逆にこれを活かした新しい行動を考えましょう。ちなみに、私はイタリア語の勉強を始めました。Ciao!

校長補佐［学生主事］伊藤　耕作
ITO Kosaku

新型コロナウイルス感染防止の影響を受け、私たち学生部が関わる活動も軒並み中止や延期を余儀なくされました。この半年間の間に多くの活動が失われた学生の皆さんの悔しい気持ちは察するに余りありますが、後半戦では、後期クラスマッチ（10月28日実施）、高専祭（11月21日実施予定）などの活動を例年とは別方法で実施する方向で準備を進めています。これらのイベントが、コロナ禍でなくなってしまった「披露の場」「想いを伝える場」とし、学生たちの活躍の場を取り戻す機会になってくれることを願っています。とはいえ、新型コロナウイルス感染症はまだまだ予断を許さない状況が続いています。今後もコロナ対策は気を緩めることなく取り組んで行きたいと思います。

校長補佐［寮務主事］春山　和男
HARUYAMA Kazuo

今年ももう半年が過ぎました。今年度の寮運営は、新型コロナウイルス感染症の影響で、前例のない事態に見舞われ、学生の皆さんも我々も混乱した日々だったと思います。この原稿を書いている10月下旬現在も週1回の登校が続いており、一部の寮生は自宅から通学してもらっている状態です。

現在、寮では新型コロナウイルス感染症対策として、いくつかの規制を行っています。寮外生の立ち入り禁止や門限を早めていることなどです。本校の寮は、万一新型コロナウイルスが持ち込まれると、浴場や食堂が共同利用のためクラスターが発生しかねない環境にあります。土足禁止や消毒の徹底、マスクの装着や、特に外出時は不特定多数の人との接触はできるだけ避けるなど、寮に新型コロナウイルスを持ち込まないよう、皆さんのご理解・ご協力をお願いします。

専攻科長　高田　陽一
TAKATA Yoichi

2020年度も半年が経過しました。言うまでもなく、新型コロナウイルス感染症に大きく影響を受けた半年でした。昨年度のこの時期には予想もしていなかったことで、普通が普通でなくなる変化に戸惑う方も多かったことと思います。

登校を制限されている中でも授業はオンデマンドを通じて実施することができました。一方で専攻科生にとって重要な活動である特別研究は制限を余儀なくされました。また、専攻科1年生は進路を検討する上で重要なインターンシップも中止となりました。

次の半年がどうなるかはわかりませんが、大きく時代が変わろうとしていることは確かです。そんな時代をリードしていけるように、専攻科生には先を見据えた行動を期待しています。

元校長からメッセージ

在職時の思い出

第10代校長　三谷　知世
MITANI Tomoyo

▲学生の報告に聞き入る三谷元校長

平成26年4月から平成31年3月までの5年間勤務しました。着任時、校長室の広さに驚きました。他高専と比べても広い方だと思います。執務や多くの会議をこの部屋で行いました。現在もそうだと思います。

執務や会議はドライなものですが、唯一、一服の清涼剤のような瞬間がありました。様々な賞や良い成績をとった学生の皆さんが報告に来てくれた時です。諸外国の協定校の学生諸氏の表敬訪問もありました。30分程話を聞いた後、宇部高専の立派な横断幕の前で記念撮影をする、ただそれだけのことですが、今でも思い出されます。学生の皆さんの真摯で、謙虚で、生き生きとした様子に心が和みました。

校長室を訪ねてくれたのは、全学生のほんの一部でしたが、賞には至らずとも、日々努力を重ねている皆さんが大多数いてこその、栄誉であったと思います。その背後には教職員の方々の暖かいご指導があったはずです。心からの感謝とともに、宇部高専を思い出しています。

挑戦を続け、タフに育つ

第９代校長　福政　修
FUKUMASA Osamu

▲50周年式典で祝辞を読み上げる様子

▼50周年記念祝賀会の様子

宇部高専関係者の皆様、新型コロナウイルスの影響で、不確実性と向き合う毎日をお過ごしのことと思いますが、私は、常日頃より、学生さんには“どのような状況に遭遇しても、自分で考え行動できる、精神的にも肉体的にもタフな人間”に育ってほしいと願っています。ところで、私の在職中には、東日本大震災の発生、高専創立50周年等の出来事がありました。50周年記念に関しては、将来の宇部高専の在り方について種々考える機会となり、“グローバルに活躍できる、創造力と実践力を持つ人間性豊かな中核的技術者の育成を目指す”こととし、理念を定めたこと等、思い出深い5年間でした。

自分で納得する目標（興味あること、やりたいこと）を見つけ、それに向かって行動することが、脳を活性化します。この繰り返しで、輝いた学生時代にしてください。やりたいことがないと言う人は、それをやったことがないだけ、しつこくやっていると面白くなります。日本の国力に陰りが見えてくる中、皆さんには、“よりグローバルに、よりタフに”育っていただき、未来を幸せに生き抜いてほしい。挑戦し、探究し、高く羽ばたいてください。

宇部高専の想い出

第８代校長　幡中　憲治
HATANAKA Kenji

2019年6月▶
ノルウェー・フィヨルドの
洋上にて

小生は平成13年4月から同21年3月までの8年間、校長として宇部高専に勤務した。当時、いわゆるリーマンショック後の世界同時不況の中に在って我が国の世相はかなり厳しかった。国の財政もひっ迫しており行財政改革が広く叫ばれていた。高等教育分野においても国立大学の独立行政法人化が推進され、それに引き続いて小生の任期途中で国立高専の法人化が実施された(平成16年4月)。校長に就任してからそれまでの3年間、直接、文部科学省高等専門教育課に赴き本校の教育環境整備に関して依頼するとともに指導を仰いだ。その結果、地域共同テクノセンターの増築、実習工場の改築並びに図書館棟の改修が実現した。また、経営情報学科に経営情報工学専攻科が設置されたことも強く印象に残っている。

学生諸君の国際性涵養を目指して海外の高等教育機関（オーストラリア・ニューカッスル大学、韓国・東義科学大学、中国・ハルピン工業大学（威海）等）と学術交流協定を締結した。そしてこの活動を推進するため学内に国際交流支援基金を創設した。これに関するプログラムに参加して帰校した学生諸君が、報告会で活動成果を素晴らしい態度で生き生きと発表する姿に深く感動したことを覚えている。

小生の在任中に宇部高専を巣立っていった諸君は現在それぞれの職場で責任ある中堅技術者として活躍していることと思う。それにしても世の中の動きは急で、かつ激しい。我が国の伝統的な終身雇用制度は崩れ、今や転職を視野に入れた勤務体系が普遍化しつつあるように思える。そして、デジタル化が急速に進行する社会情勢にある。本校は学科の構成から見て情報技術教育に強い特徴を備えている。将来我が国を背負うことが期待されている本校の学生諸君にはこの方面の知識を十分に習得し将来に備えていただきたい。放課後、学生諸君の課外活動の様子を見て回るのが楽しみであった。健康が全てに優先することは論を待たない。在校生諸君には、人生で最も大きな可能性を秘めた青春の日々、心身を存分に鍛えてほしい。岡山の地から学生諸君の健全な成長と発展を心より祈っている。

卒業生等からメッセージ

５年間の高専生活で身につけたもの

電気工学科１期生　品川　　博
SHINAGAWA Hiroshi

学生時代の▶
品川さん

私達一期生の入学当時（1962年）、沼からの道は砂利道で両側には田圃や畑が広がり、ようやくたどり着いた校舎は建設中で、山大工学部夜間短大の木造校舎でした。そんな教室で田舎からポッと出の15才の少年が、いきなり一流の研究者や大学の先生から90分の講義を受ける。その内容たるや考えるヒントが与えられるだけで、チンプンカンプン。この先、どうなることかと心配でしたが、半年たち1年もすると次第に学ぶということは与えられるものではなく、自ら学ぶこと、そして、自ら考え仲間と協力して行動するということが身に付き始め、育まれて行きました。実感したのが5年生の卒業研究でした。当時、最先端の制御理論の論文を入手された先生と2人でその内容を読み理解することがテーマでした。すべて英文で高度な数式や理論式で書かれたものを1週間に1~2回のペースで輪講を重ね、約9か月で卒業研究としてまとめ、発表できた事でした。卒業後、5年間で身に着けたこの考え方をバックボーンとして、一技術者、一社会人として国内外を駆け巡り、悔いのない74才の私が今、ここに居る。このようなチャレンジ的校風が後輩たちに脈々と受け継がれて行くことを願っています。

全寮制一期生の思い出

宇部しらとり会会長・機械工学科８期生　吉村　泰範
YOSHIMURA Yasunori

丁度私の入学の時から全寮制となり、入寮することになりました。

入寮日にグレーの毛布2枚渡され、翌朝早朝からグランドに集合、点呼そして全員で走り、体操そして高専エッサッサの練習をしました。今思えば、海軍予科練のごとくです。

食事を終えて寮から学校へ。そして初めての授業は100分間が、1日4コマでした。授業が終われば慌てて部活動の準備をし、グランドへ。練習終了後は寮の食堂で先輩の食事を準備・後片付けをして、入浴、部活のユニフォームの洗濯、点呼、そして学習で22時消灯就寝。学校の授業の内容も大変スピードが早く、ぎっしり詰め込まれました。とにかくハードで遊ぶ暇もなく、大変厳しく毎日が辛かったです。

学校の教授はほとんどが海軍出身で、授業内容もレベルが高く、厳しくされど非常に優しい人間力のある人が多かったように思われます。面白いもので在学中に、体力・精神力・学力とともにあいさつ礼儀等も自然に身についたものです。

学校は私の在学していたころに比べ大きく変化しました。当時は、機械工学科、電気工学科、工業化学科でしたが、制御情報工学科、物質工学科、経営情報学科、専攻科が創設され、女子学生も増えました。大学への編入学やグローバルな学術交流協定なども拡がり、在学生にとっては非常に素晴らしい良い環境におられると思います。

特に、今からの世の中の環境は何が起こるか判らない時代です。大きく変化しなくてはなりません。

在学生のみなさん。宇部高専の原点、文武両道の精神（知・徳・体）でしっかり学生時代に自分を鍛えてください。そうすることによって社会へ出て大きく羽ばたけるのではないでしょうか。

優れたものは、厳しさの中でしか育たないように思います。在学生にその精神が引き継がれて行く事を深く願っております。

祝「学校だより第１００号」発行に寄せて

宇部高専Ｔ＆Ｂ会長・機械工学科９期生　小玉　明典
KODAMA Akinori

国立宇部工業高等専門学校が1期校として創立され60年が近づいています。その中で第100号の学校だよりが発行されました。学校だよりはその時代の動向を保護者の方と学校が共有するツールとして大きな役割を持つものと考えます。

９期生卒業時の社会情勢（昭和50年前後）は、昭和40年台の高度成長がオイルショックにより大きく停滞した時代です。トイレットペーパーが店頭から姿を消し、現在の日本社会をけん引している自動車メーカーは、石油の枯渇で将来が無いと思われ、人気が全く有りませんでした。トヨタ自動車には機械工学科ビリの学生が総合職として就職、思いのある学生を含めて日産、ホンダ等々進路を決めていきました。成績の良い学生は、三菱、日立、東芝等、地元では宇部興産と重厚長大企業が選択肢であった事を思い出します。

それから卒業50年近くを迎え、多くの同窓生はグローバルな人生を、Uターンして地元企業で経営者、幹部として生き抜いて来ました。そして常々思うことはへこたれた奴がいないことです。文武両道の精神で培った負けず魂が、そして同窓生の絆が我々の大きな財産だったと感じる今日この頃です。

▼当時の体操の様子

学校だより第100号発行おめでとうございます

電気工学科20期生　春山　和男
HARUYAMA Kazuo

私が卒業してからもう30年以上の月日が流れました。私が入学した当時の宇部高専は3学科4クラス（機械工学科2クラス、電気工学科・工業化学科1クラス）で専攻科もなく、1・2年生は全寮制で学生の約7割が寮生という時代でした。

寮では毎朝の体操（訓練？）で、校舎の階段を昇るのがつらくなるほどしごかれました。体育系でなく技術系専門の学校に入学したはずなのになぜ？と大いに疑問に思いました。今でも、この当時の想い出で真っ先に浮かぶのがあの体操で、他のことはあまり印象に残っていないくらいです。

現在でも制服は変わってないですし、建物もいくつか増えましたが基本そんなに変わっていません。でも中身はずいぶん変わりました。学校は5学科5クラスとなり専攻科もできて、当時は学校で十数名しかいなかった女子学生が約3分の1まで増えました。全寮制も休止となり、寮生は在校生の約3割となりました。一番変わったのは学生だった私が教員となり、教える側になっていることでしょうか。これから先、今の学生の皆さんが作り上げていく宇部高専がどんな風になっていくのか楽しみです。

高専の思い出

機械工学科37期生　徳永　敦士
TOKUNAGA Atsushi

宇部高専を卒業して早くも17年が経とうとしています。私が宇部高専の機械工学科に着任した約10年前は、学生時代にお世話になった先生方も多く残っておられましたが気がつけば顔ぶれも大きく変わり月日の流れる速さを実感しています。

私は学生時代、勉強と部活に充実した日々を過ごしていました。テスト週間は2週間前から全科目のノートを丸暗記する、今思うと恐ろしい勉強法でテストを乗り越えてきました。部活は弓道部に所属していました。主将も務め、当時の全国大会に当たる西日本大会の運営も経験させていただきました。なかなか苦労も多かったですが、部活動の友人とは今も当時の話を語る仲です。勉強も部活も今では良い思い出です。

今の宇部高専に思うことは、学生に対するサポートが充実していて羨ましい！！ということです。留学では世界中を旅できますし、部活動ももちろんあります。地域教育では地域のイベントで自分のアイデアを形にでき、インターンシップも4年生になれば全員が経験できます。ただし、これらは自分から動かないと経験できません。自分が学生だったら・・・留学もしたいし、地域教育もやりたい！でも、動かないとチャンスはするりと逃げていきます。むしろチャンスがあることにすら気づかないかもしれません。将来の自分を描いて、色々なことにチャレンジしてほしいと切に願っています。これからも学生のチャレンジをサポートしていきます。

現在、私は宇部高専の同窓会組織であるしらとり会では理事を務めています。間もなく宇部高専は60周年を迎えます。同窓生、在校生で大きなイベントを開催したいと思います。これからの10年、100年に向けて同窓会活動への参加と協力をお願いいたします。

学校だより第１００号に寄せて

白鳥寮寮母　的場　鈴子
MATOBA Suzuko

宇部に高専が出来て、ちょっとした自慢気だった市民の一人が、女子寮の寮母として勤める事になり、あっという間に年月が経ちました。学生さんの素晴らしさは、1にも2にも承知はしておりましたが、期待は裏切らなかったです。「自立心」「目的意識」それぞれ出来上がった人達の集まりでした。

寮に入れば勉強が出来るから入寮したと、口にしていました。皆さん共通しているものが、“目が生きている”“すきがない”。外堀がしっかりしていて、中に入り込めないものがあり、1~2年は、じっと見守っており、そんな彼女達から私なりに学ぶものがありました。

宝箱を開ける様に時折思い出しております。

ここ数年、良くも悪くも今時代にそった寮生活を、皆さん頑張っておられます。当初から勤める中で、1~3年生は親目線で見守って、時折声をかけてます。4・5年生は、自己責任で、社会に出る前の人間づくりと、成長を見守っております。

“せっかく高専に入ったのだから”しっかり学んで、高専卒を心の中で自慢してほしいものです。後悔のない学生生活をしてください。

社会に出たら必ず「もっと勉強していれば……」と何度か思う事があります。学問は後々の自分を助けてくれます。高度な学問を身につけることが出来る皆さんが、この年の私もうらやましいです。

諸先輩方の勉学心を受けついで、未来の自分づくりをして下さい。そして高専生の誇りを忘れず、思いやりのある社会人として、頑張ってください。

最新 令和2年度 就職・進学状況

令和2年9月30日現在　※(　)は女子学生で内数

学　科	機械工学科	電気工学科	制御情報工学科	物質工学科	経営情報学科	計
求人会社数	799	810	710	490	476	3,285
就職希望者数	24(1)	28(1)	27(8)	27(12)	27(25)	133(47)
進学希望者数	9	10	9	12(5)	14(6)	54(11)
就職内定者数	23(1)	28(1)	24(8)	26(12)	26(24)	127(46)
進学内定者数	8	7	9	10(5)	9(6)	43(11)
就職内定先	日鋼設計㈱、サントリープロダクツ㈱、㈱ダイコーテクノ、西部石油㈱、㈱ディスコ、東海旅客鉄道㈱、テルモ山口㈱、花王㈱、太陽石油㈱、ダイキン工業㈱、東芝エレベーター㈱、協和発酵バイオ㈱、㈱東京都下水道サービス、中国電力㈱、関西電力㈱、東ソー㈱南陽事業所、下関三井化学㈱、三菱電機メカトロニクスエンジニアリング㈱、NECフィールディング㈱、㈱SUBARU、㈱ダイディックス㈱クラレ、㈱日立システム	宇部マテリアルズ㈱、大阪シーリング印刷㈱、西日本高速道路ファシリティーズ㈱、三菱電機エンジニアリング㈱、中国電力㈱、中国電力ネットワーク㈱、三菱電機㈱神戸製作所、セントラル硝子㈱、富士ゼロックス東京㈱、三菱電機ビルテクノサービス㈱、西日本旅客鉄道㈱、宇部興産㈱、関西電力㈱、㈱USEN-NEXT HOLDINGS、日本IBMテクニカルソリューション㈱、三菱電機㈱姫路製作所、㈱NFエンジニアリング、三菱電機㈱受配電システム、富士電機㈱、㈱SUBARU、東海旅客鉄道㈱、キリンビバレッジ㈱、TOTOパスクリエイト㈱、三菱プラントエンジニアリング㈱、NTTファシリティーズ中国㈱、花王㈱	日立造船㈱、中国電力ネットワーク㈱、パナソニックLSエンジニアリング㈱、JFEスチール㈱西日本製鉄所、ライオン㈱、関西グリコ㈱、KDDIエンジニアリング㈱、コベルコソフトサービス㈱、㈱NTTデータMSE、㈱メンバーズ、東海旅客鉄道㈱、日本ポリエチレン㈱、㈱安川電機、マツダ㈱、NHK広島放送局、協和キリン㈱、㈱小松製作所湘南工場、㈱富士通マーケティング、キヤノン㈱、富士通クラウドテクノロジーズ㈱、関西電力㈱、㈱iSB	協和キリン㈱、キリンビール㈱横浜工場、宇部マテリアルズ㈱、旭化成㈱、東レ㈱、ダイキン工業㈱、第一三共ケミカルファーマ㈱、サントリープロダクツ㈱神奈川綾瀬工場、宇部興産㈱、三井化学㈱大阪工場、出光興産㈱徳山事業所、㈱資生堂大阪工場、㈱トクヤマ、田辺三菱製薬工場㈱、三井化学㈱岩国大竹工場、三洋化成工業㈱、西部石油㈱、DIC㈱、サントリースピリッツ㈱大阪工場	GMOリサーチ㈱、㈱宇部情報システム、㈱ニュージャパンナレッジ、㈱ハイマックス、NOK㈱、㈱サイバーアクセルアドバイザーズ、㈱富士通エフサス、㈱NTTデータフロンティア、日本アイ・ビー・エムテクニカル・ソリューション㈱、西日本オフィスメーション㈱、㈱富士通ソーシアルサイエンスラボラトリ、富士通九州ネットワークテクノロジーズ㈱、㈱富士通山口情報、日本精蝋㈱、西部石油㈱、㈱メンバーズ、山口産業㈱、東芝ITサービス㈱、青藍会グループ、NECネッツエスアイ㈱、㈱トクヤマ情報サービス、神田通信機㈱、㈱NTTデータMHIシステム、京セラコミュニケーションシステム㈱、ICTコンストラクション㈱	
進学内定先	宇部高専専攻科 千葉大学 長岡技術科学大学	宇部高専専攻科 豊橋技術科学大学 長岡技術科学大学 山口大学	宇部高専専攻科 九州工業大学 京都工芸繊維大学	宇部高専専攻科 長岡技術科学大学 九州工業大学 山口大学・岡山大学 京都工芸繊維大学 東京農工大学 豊橋技術科学大学	宇部高専専攻科 九州大学	

専　攻	生産システム工学専攻	物質工学専攻	経営情報工学専攻	計
求人会社数	709	407	418	1,534
就職希望者数	12	2	3(1)	17(1)
進学希望者数	7(2)	3		10(2)
就職内定者数	11	2	2(1)	15(1)
進学内定者数	4(1)	3		7(1)
就職先	㈱ハイマックス、㈱日本触媒、㈱トクヤマ、三菱ガス化学㈱、マツダ㈱、ENEOS㈱川崎製油所、宇部興産㈱、NOK㈱、旭化成㈱、富士通㈱、㈱ヤナギヤ	P&G㈱ ダイキン工業㈱	東洋鋼鈑㈱ G-comホールディングス	
進学先	東京工業大学大学院 九州工業大学大学院 長岡技術科学大学大学院	山口大学大学院 東京工業大学大学院		

キャリア支援室では、随時就職・進学相談を受け付けています。
教育コーディネーターの面談希望学生は、申込票を添付してメールにて予約をしてください。
申し込み先メールアドレス：career@ube-k.ac.jp
件名：キャリア面談予約
※キャリア面談申込票は宇部高専ウェブサイト(https://www.ube-k.ac.jp/cheer-/)からダウンロードできます。

▶宇部高専 キャリア支援室のWebページはこちら

キャリア支援室長
落合　積
OCHIAI Tsumoru

キャリア支援室では、低学年からジェネリックスキルなどのキャリア教育を通してキャリア・デザイン形成の支援を行っています。
今年度の就職・進学活動については、新型コロナウイルスの影響を受け、Webによるオンライン面接・試験が増加しました。また、活動時期についても、就職は例年より1か月程度、進学は長いところで数か月遅くなるケースもあり、学生の活動スケジュールに大きく影響しています。
キャリア支援室としては、新型コロナウイルスの影響による来年度の採用数への影響、面接等の試験形態の変化に対応できるよう、体制強化の必要性を感じています。特に、今年度の4年生と専攻科1年生は、インターンシップ中止により企業の情報収集の機会がほとんどないため、できるだけ企業と直接接する機会を設けたいと考えております。

UBE KOSEN TOPICS
宇部高専トピックス

Check it!
本校ウェブサイトにて最新ニュースを随時掲載！
https://www.ube-k.ac.jp/

心よりお礼申し上げます

新型コロナウイルス感染症の感染防止として、関係各所より様々なご寄付をいただきました。心より感謝申し上げます。

宇部高専後援会：ユニクロエアリズムマスク(1250セット)・消毒液　一式
宇部しらとり会(同窓会)：消毒液噴霧スタンド10台
株式会社YOSHIMURA 吉村泰範様：マスク3000枚

ご寄贈いただきました感染対策用品は、新型コロナウイルス感染症等の感染防止に活用させていただきます。引き続き、本校の新型コロナウイルス感染症対策に関しては、ご理解・ご協力のほどよろしくお願いいたします。

▲宇部高専後援会より寄贈いただいたユニクロエアリズムマスク

▶2020.10.11 Sun

スポーツコミッション報告

令和2年10月11日(日)に宇部市恩田運動公園で開催されたスポーツコミッションフェスタ2020～健幸スポーツの祭典～にKOSEN-スポーツで開発したスポーツを出展しました。KOSEN-スポーツとは、高専の教育課程で学生が習得した専門的な技術を応用し、テクノロジーを付加した新しいスポーツツール(テクノロジー運動器具)と、それを用いたルールを開発し、見たこともないスポーツを創るプロジェクトです。
今年度は、プロジェクト学習の履修学生と学生会を中心としたメンバーで以下の3種目を出展し、約100名の一般来場者に体験していただきました。

【的当てカメラ】
スマホのカメラ機能とボタンスイッチを使って、動く的を写すゲームで、写った的が画像の中央に近いほど高得点となる。
【パスドラ】
手をグーにした状態でボールをパスしながら二人一組でスタートからゴールまで走り、移動時間とパスの回数を競う。
【RUSH】
手を振った回数を二人で競うゲームで、相手の回数が増えるのを妨害することもできる。SONY社のMESHというツールを使って開発しました。

▲的当てカメラ

▲パスドラ

今年度は特に、コロナ禍での実施ということもあり、新しい生活様式でも誰でも安心して楽しむことを目標に開発しました。今後も開発を重ね、来年度は宇部市制施行100周年記念事業にも出展する予定です。

KOSEN-スポーツの詳細につきましては、特設サイト(http://www2.ube-k.ac.jp/ksports/)もご覧ください。

KOSEN-スポーツ特設サイト

▶2020.10.28 Wed

クラスマッチを終えて

現在も収まることを知らない新型コロナウイルスですが、校長先生をはじめ先生方のお力添えをいただき後期クラスマッチが開催できたことを大変うれしく思います。今回のクラスマッチは分散開催・新競技の導入・試合の配信といった例年とは異なった形での開催となりました。今年度の学生会役員としての初めての大仕事であり、行事を運営することの難しさを痛感しました。新競技を大量導入したことによる企画書・ルールブックの作成などの事前準備はもちろんですが、当日の進行の大変さを実感しました。想定よりも仕事量が多い競技があり役員の担当場所の適時変更や、スコアシートや体温記入表の回収が想像以上に時間がかかるなど実際に行ってみてわかったことが多々ありました。しかし学生会役員が臨機応変に対応してくれたことや、何かあればすぐに連絡を取り合うなど初めてながらも試行錯誤し無事にクラスマッチを終えることができました。このような世の中でもアイデアを出し、新しいことに挑戦することで十分に楽しめることができ、とてもいい経験ができたと思えたクラスマッチでした。

▲YouTube Liveを用いて閉会式を生配信する様子

学生会 企画部長
機械工学科4年　岡田　瞳舞　OKADA Touma

新任の先生紹介

●氏　名：町田　峻太郎　MACHIDA Shuntaro
●所　属／職名：物質工学科／助教
●専門分野：代謝生理学、微生物工学
●出　身：宮城県　●趣　味：料理
●ひとこと(自己紹介)
10月1日付で物質工学科に助教として着任いたしました。これまで、微細藻類による燃料生産や微生物を利用した機能性オリゴ糖の生産に関する研究に取り組んできました。微生物機能を用い、社会に役立つ技術を開発することで環境問題の解決や産業の拡大に寄与したいと考えています。学生の皆さんには生物学やその実験手法を学び、身の回りに活用されている科学技術を理解するとともに、学んだことをぜひ社会で生かしていただきたいと考えています。よろしくお願いいたします。